

地域の歴史文化の継承に一筋の光 ～東京湾学講座を支える人びと～

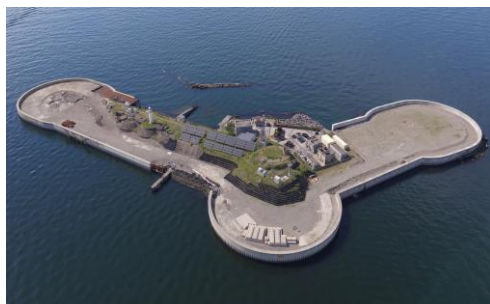
1 「東京湾学講座」の目的

東京湾学講座は、富津公民館主催講座として平成14年1月から毎月1回第三日曜日に開講しており「富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化・自然等を幅広く学習する講座」である。講座受講生が「富津湾の会」という組織をつくっており、現在会員数は約60名である。毎回テーマの異なる内容で、講師一人当たり1時間の講義を2講座実施しており、1時限目は大学教授や博物館職員等の専門家による講義、2時限目は「富津湾の会」会員による研究発表を行っている。年2回程度探訪会を実施している。

講座のねらいとしては、富津岬を中心とした東京湾岸の歴史や文化・自然等を幅広く学習することで、地域の歴史・文化を再発見し、郷土愛を深める。また、会員が研究成果を発表することで、会員同士が研鑽を積みながら研究を深め、人材育成に繋げていく。歴史資源を掘り起こし、資料化することで、後世に伝え残すことを目的としている。

2 「東京湾学講座」から生み出されたもの

東京湾学講座は今年で18年目を迎えるが、その歴史の中で設立当初から「東京湾海堡の活用」がたびたびテーマとしてあげられ研究活動が行われてきた。東京湾海堡は明治～大正期に浦賀水道に国土防備を目的に3つ造られた人工島で、このうちのひとつ第二海堡が今年歴史観光を目的とした観光事業者による上陸ツアーが実施されており、「富津湾の会」の地道な活動に一筋の光がさしてきている。昨年10月には富津市と共催で講演会が実施された。



▲第二海堡全景 提供:国土交通省
関東地方整備局東京湾口航路事務所

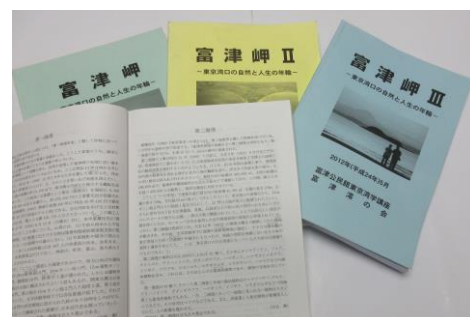


▲富津湾の会会員も参加した3月
の上陸ツアー灯台付近の様子



▲防空指揮所といわれている建物

また、講座の記録誌「富津岬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を刊行しており、富津湾の会では「市史など公的な歴史書とは別の、より多くの人びとから見た地域史」としており、地域の歴史を後世に伝え残す重要な役割を果たしている。また、東京湾学講座受講生の一部から、地元に残る織本家文書を読み解く「古文書を読む会」が立ち上がり、郷土の歴史を読み解く人材の育成を行い、探訪会等での受講生の学習に役立っている。今後の課題としては講座を継承していく若い人材の確保である。



▲記録誌「富津岬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

東京湾学講座が18年間継続発展してきたのは、富津湾の会会員を始めとする本講座に関わる多くの人びとの「郷土の歴史文化を後世に語り継いでいこう」という熱い思いと尽力によるものである。本講座を支えているもの、それは地域資源となりうる「歴史文化」、それを継承していこうと思いを一つにする「人と人との絆」である。